

発想を変える

私たちが変わる

世界を変える

# PARC 自由学校 2022

PACIFIC ASIA  
RESOURCE CENTER  
FREEDOM SCHOOL  
2022

## 講座一覧

### 連続講座

ひとつのテーマにつき複数回かけて学んでいきます。

#### オンライン連続講座

基本的にはオンラインの講義形式の講座です。質疑の時間などには、ご希望の方はマイクをつないでご参加いただけます。チャットでのご参加や聞くだけ参加も可能です。講座によっては、フィールドワークや手を動かして学ぶ実践回もあります。

- 01 ポスト新自由主義  
“ブルシット・ジョブ”からケアと連帯による世界へ
- 02 【PARC50周年記念講座】  
民主主義クライシス——アジアにおける希望を探る
- 03 樋口健二が語る・日本の写真家列伝
- 04 ポストコロナ時代のライフスタイル  
都市は変わるか
- 05 平和のための日韓市民連帯——未来を創る市民の力
- 06 【PARC50周年記念講座】  
市民活動をアーカイブする：記憶と記録の継承・活用のために

#### オンライン読書ゼミ

少人数制・参加型のオンラインゼミです。

- 07 著者と読む『愛と差別と友情とLGBTQ+：  
言葉で闘うアメリカの記録と内在する私たちの正体』
- 08 『モモ』で読み解く知識ゼロからの経済学入門  
——「お金」はなぜ格差と分断を生むのか

#### 語学講座

少人数制・参加型のゼミです。講座によって、オンライン受講のみのものと、対面受講可のものがあります。

- 09 知って使おうアイヌ語  
——世界の言語復興の動きとつながる
- 10 ケイトの”What's Happening In The World!?”
- 11 武藤一羊の英文精読
- 12 世界のニュースから国際情勢を読み解こう

#### オフライン講座（関東近郊の方におすすめ）

教室やフィールドに集まり、五感を通して学ぶ、対面型講座です。

- 13 治安維持法——いま現場から問う、国家による暴力と監視の歴史
- 14 畑で実践!! 〈たね〉からはじまる無肥料自然栽培
- 15 ビオダンサ:生きる・はぐくむ・歩く
- 16 表現することは生きること

### 単発講座

どなたでも、ご希望の回を1回から、オンラインでご参加いただけます。

- 【PARC50周年記念講座】  
問い続ける者たち——アジアと日本の歴史から描く未来
- 来るモノ・行くモノを通して考えるアフリカと日本
- ワンコイン・シネマ・トーク

# 01 ポスト新自由主義 “ブルシット・ジョブ”からケアと連帯による世界へ

1980年代以降、新自由主義に基づく市場経済、規制緩和、自由貿易がさらに拡大し、その弊害としての格差や地域経済の衰退は世界各国・各地でますます深刻になっています。また、経済のグローバル化への反作用としての極右勢力や権威主義的な政治の台頭も起こっています。こうした中、多くの国で「新自由主義の失敗」が認識され、大きな方向転換をめざし政権交代が実現した国もあります。日本でも各所で「新自由主義からの脱却」が論じられる中、私たちの暮らしや社会にとっての糸口はどこにあるのでしょうか。この講座では、新自由主義を乗り越える視点として「労働・ケア・コミュニティ」を柱にし、世界の運動最前線から学び、考えます。



コーディネーター **内田聖子** (PARC 共同代表)

自由貿易・投資協定のウォッチと提言、デジタル経済政策に関する提言活動を行う。編著に『自由貿易は私たちを幸せにするのか?』コモンズ2017/『コロナ危機と未来の選択パンデミック・格差・気候危機への市民社会の提言』コモンズ2021など。

## 7月15日(金) 資本主義の「限界」と「日常的ネオリベリズム」 ——“クソどうでもいい仕事”はなぜ増える？

2020年に亡くなったデヴィッド・グレーバーの『ブルシット・ジョブ クソどうでもいい仕事の理論』が日本でも話題となっています。本書の翻訳者でもあり、グレーバーの友人でもあった酒井隆史さん、経済思想史の観点から新自由主義を批判的に考察する中山智香子さんのお二人に、日常にはびこるネオリベリズムとブルシット・ジョブについて語っていただきます。



**酒井隆史**  
大阪府立大学教授

**中山智香子**  
東京外国語大学教授、PARC理事



## 7月22日(金) 新自由主義は、チリから始まり、チリで終わる ——中南米で続く左派新政権と社会運動の50年



**松下 冽** 立命館大学名誉教授

今日、「資本主義の終焉」や「人類の危機」いった言説が一定の言論空間で広がっている。では、われわれは新自由主義時代の終わりを迎えているのだろうか? 「われわれは今どこにいるのか、何を目指して、どこに向っているのか?」、皆さんと考えたい。

## 8月5日(金) パンデミック監視資本主義に抗う ——デジタル・リテラシーとデジタル権



**小笠原みどり**  
ジャーナリスト、社会学者(カナダ・ビクトリア大学教員)

パンデミックを機に、オンラインでのコミュニケーションやショッピングが推奨されていますが、インターネットは資本のための監視の場でもあります。デジタル監視の内実と、情報への権利を考えます。

## 9月2日(金) 米国における変革への力 ——BLMとコミュニティから生まれる労働運動



**菅 俊治** 弁護士

アメリカにおける住民運動や労働運動の作り方、オーガナイザーの育成、社会主義組織の世代継承の状況と教訓を学ぶ。

2022年7月～11月(予定)  
金曜日 19:00～21:00

●全9回 ●開催形式:オンライン(zoom)

●受講料:15,000円(U25割:5,000円)

## 9月30日(金) 資本主義的食料システムのカラクリを理解し乗り越える



**平賀 緑** 京都橋大学経済学部准教授

現在の工業的農業・食料システムは地球も人も壊しているという。同じ資本主義のカラクリで持続可能な社会を実現できるのか? そもそも「生命の糧」を市場に組み込んだ過程から見直したい。

## 10月7日(金) プラットフォーム・エコノミーの罠 ——ビッグ・テックと闘う世界のギグ・ワーカー



**浦田 誠** 国際運輸労連(ITF)政策部長

「よかったのは最初だけ」。ギグワーカーが憤るプラットフォーム・エコノミーの実態とは。世界を席巻したタクシー労働者のライドシェア反対運動から10年。今なにが起きているのか。

## 10月21日(金) 欧州の地域主義(ミュニシパリズム)運動 ——コミュニティを強くするケア、トランジション、公コモンズ連携



**岸本聡子** トランスナショナル研究所(TNI)経済正義プログラム、オルタナティブ公共政策プロジェクト研究員

少し硬い言い方をすると民主的で協同的な公的所有と統治、サービス、政策の共同生産の在り方をケア、労働、エネルギー、住宅、水の具体的な事例から考えます。地域と労働者を搾取する経済モデルと決別し、地域のWELL-BEINGを高める実践へ。

## 11月4日(金) ケアと連帯の論理 ——新自由主義を乗り越える民主主義の構想



**岡野八代** 同志社大学教授

付加価値を追い求める資本主義経済のもとで、ケアは不当に低く評価されてきました。ケアの価値は市場では決まらず、政治的な討論を通じて公的に決めなければなりません。「誰もがケアされて生きている」という事実を立ち、私たちに必要な理論と実践をお話いただけます。

## 11～12月で調整中 **特別オープン講座** 脱グローバル化時代への転換期 ——国家・地域・民主主義



**柴山桂太** 京都大学大学院人間・環境学研究科 准教授

グローバル化が民主主義を空洞化させ、国内の利害調整が機能せず、国際政治・社会そして人びとの間に深刻な歪みと分断を引き起こしている。この状況を打開するためのキーワードは、「国家・地域・民主主義」。世界の潮流と日本の現状をつなぎ、目指すべき方向を考える。

※特別オープン講座のため、この回のみ参加される一般受講者との合同受講となります。



【PARC50周年記念講座】

民主主義クライシス——アジアにおける希望を探る

「香港の民主主義は死んだ」—2020年の香港国家安全維持法(国安法)施行後、100名以上の市民が逮捕された香港で、多くの市民がそう嘆きました。ミャンマーでは2021年2月に軍事クーデターが起こり、軍は今も民主化を要求する市民を弾圧し続けています。タイやカンボジアでも軍による政治掌握や一党独裁が続きます。一方、2001年の「911」と米軍による占領から20年経ったアフガニスタンで人びとにとつ

ての「平和」と「民主主義」は実現しているのでしょうか？政治体制や文化の違いはありつつも、今まさに、アジア全体が民主主義の危機という共通の課題に直面していると言えます。この講座では、各地で活動するNGOや専門家のお話を聞き、日本の課題とも結び付けながら、アジアにおける平和と民主主義へのビジョンを議論します。

2022年7月～10月

原則として金曜日 19:00～21:00

- 全7回 ●開催形式:オンライン(zoom)
- 受講料:15,000円(U25割:5,000円)



コーディネーター 内田聖子 PARC 共同代表

自由貿易・投資協定のウォッチと提言、デジタル経済政策に関する提言活動を行う。編著に『自由貿易は私たちを幸せにするのか?』コモンズ2017/『コロナ危機と未来の選択パンデミック・格差・気候危機への市民社会の提言』コモンズ2021など。

7月29日(金)

911と「対テロ」戦争から20年——コロナ、権威主義、ポピュリズムの中で民主主義が直面する課題



谷山博史

日本国際ボランティアセンター(JVC)顧問/市民社会スペースNGOアクションネットワーク(NANCIS)コーディネーター/土地規制法廃止アクション事務局

アフガニスタンやイラクでの対テロ戦争と現在の世界的な市民社会スペース縮減、台湾有事を前にした戦争準備と日本での市民運動の監視・規制を一つの流れとしてお話しします。

9月29日(木)

「台湾有事」と軍事化される琉球弧——後退する自治と平和



池尾靖志 立命館大学 非常勤講師

足を運べるようになったら、ぜひ現地に足を運んで、自分の目と耳を使って沖縄の現状を確かめてみましょう。

8月19日(金)

ミャンマー(ビルマ): 不服従運動が描く民主化と諸民族平等への希望



根本 敬 上智大学総合グローバル学部 教授

2021年2月1日のクーデター以来、ミャンマー(ビルマ)の人々は「光」から「闇」に突き落とされ、国軍の暴力のもとで苦しんでいます。しかし、一方で希望の灯も見えています。諸民族平等のフェデラル民主制を目指す国民統一政府(NUG)が人々の強い支持を得ながら国軍政権と闘っています。その詳細を学び、私たちに何ができるのか、一緒に考えてみませんか。

10月14日(金)

平和・民主主義——NGOは何ができるのか



小野山亮 一般社団法人平和村ユニテッド代表理事

急変するアフガニスタン。状況は依然、不安定です。数十年にわたる紛争下、武力への依存、暴力が身近にある環境に対抗し、現地の人びとと自らが行う平和のための取り組みをご紹介します。



波多江秀枝 国際環境NGO FoE Japan

フィリピンなどで起きている人権侵害と日本で暮らす私たちのつながりを考えるきっかけに少しでもなれば幸いです。

8月26日(金)

独立から20年: 東ティモールの経済自立と民主主義の現在



伊藤淳子

NPO法人パルシック東ティモール事務所代表、理事

24年にわたる隣国インドネシアの軍事支配への抵抗闘争に勝利し、2002年に主権回復を果たした東ティモール。この20年間で、東南アジアで最も民主的な国と評価されるほどに制度的民主主義が定着する一方、政治、経済、市民社会は混迷を続けています。現地から東ティモールの(現在)を報告します。

10月28日(金)

私たちはアジアとどうつながっていいのか——民主主義の危機と市民社会の連帯



五十嵐誠一

千葉大学大学院社会科学研究院 教授

近年、アジアでは民主主義の「後退」とも言いうる現象が観察されます。この危機の構造を比較の視座から捉え、市民社会に何ができるのかを考えます。



9月9日(金)

香港民主化——「国家安全維持法」下での抵抗運動最前線



阿古智子

東京大学大学院総合文化研究科 教授

逃亡犯条例改正案への反対デモが盛り上がった香港が、国家安全維持法の施行で大きな岐路に立たされています。香港の抱える植民地構造と民主化への模索を考察します。

● PARCは1973年に設立され、2023年に50周年を迎えます。記念事業の詳細については、PARCのウェブサイトをご覧ください。

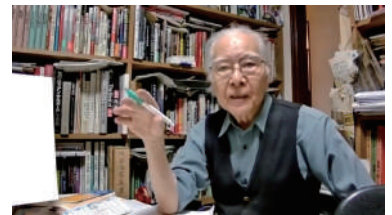
# 03 樋口健二が語る・日本の写真家列伝

変わりゆく日本列島の姿を半世紀にわたり記録してきたフォトジャーナリスト・樋口健二さん。自身の写真の1枚1枚から戦後日本の知られざる歴史を語ることができる稀有な時代の証言者でもあります。しかし、樋口さんにはもうひとつの顔があります。写真専門学校の副校長として、写真家の魅力を伝える第一人者でもあるのです。それぞれの写真家の代表作は、どのように時代を切り開いてきたのか。樋口さんの仕事場兼書斎から、日本を代表する写真家たちの業績を読み解き、語り尽くすオンライン・シリーズ。案内はジャーナリストの永田浩三さんに務めていただきます。



2022年7月～12月  
火曜日 19:00～21:00

- 全6回 ●開催形式: オンライン (zoom)
- 受講料: 15,000円 (U25割: 5,000円)



講師 & コーディネーター

樋口健二

フォトジャーナリスト / 日本写真専門学校 副校長

写真は日本社会につねに多大な影響を与えてきた。それは戦前、戦後を通じ多くの大先達の努力の賜物である。今回、私が独自に十数人の写真家をピックアップし、その活躍をお伝えしようと思う。今も数多の写真家が華々しい活躍をしていることも知って頂きたい。

profile

1937年長野生まれ。62年東京総合写真専門学校卒業。同校助手を経てフリー。69年に四日市公害を撮った「白い霧との闘い」写真展を開催。以降約40年にわたり、公害、戦争の傷跡、原発被ばく労働など、高度経済成長する日本社会の影をとらえた報道写真を発表し続け、国際的注目を集める。

写真集:『原発崩壊1973年～2011年』合同出版 2011 / 『増補新版 樋口健二報道写真集成 日本列島1966-2012』こぶし書房 2012 ほか多数



講師 & コーディネーター

永田浩三

武蔵大学 教授 / ジャーナリスト

土門拳、木村伊兵衛、濱谷浩…名だたるカメラマンのどこがすごいのか。他者の仕事のよさを見いだす名人である樋口さんに、日本を代表する写真家たちの列伝を写真集のページを繰りながら熱く語っていただきます。

profile

1954年大阪生まれ。1977年NHK入社。ディレクターとして教養・ドキュメンタリー番組を担当。プロデューサーとして『クロズアップ現代』『NHKスペシャル』『ETV2001』等を制作。2009年から武蔵大学社会学部教授。編著書に『フェイクと憎悪』など。ドキュメンタリー映画『闇に消されてなるものか』を制作。

主著:『ヒロシマを伝える 詩人・四國五郎と原爆の表現者たち』WAVE出版 2016 / 『奄美の奇跡』WAVE出版 2015

7月5日(火)  
土門拳

人間の内面を浮かび上がらせるポートレート、筑豊や下町の子どもたち、ヒロシマ、古寺巡礼。日本を代表するリアリズム写真家の仕事を写真家の目を通して紹介する

10月4日(火)  
江成常夫・大石芳野・桑原史成

中国残留孤児や戦争花嫁など歴史の負の遺産を記録した江成、ボルボトの虐殺やヒロシマ・アウシュビッツを見つめた大石、そして水俣を撮り続けた桑原。3人の社会派写真家の列伝。

8月2日(火)  
木村伊兵衛と田沼武能

東京の下町や秋田に生きる人々の日常を切り取った木村伊兵衛はアンリ・カルティエ＝ブレッソンになぞらえられた。弟子の田沼武能も町で遊ぶ子どもたちを見事な記録した。

11月1日(火)  
岩合光昭・野町和嘉・中村征夫

サバンナに生きる動物が持つ厳しい自然のおきてを浮かび上がらせた岩合、アフリカ・ナイル川流域に生きる民衆を見つめた野町。中村は、潜水という手法で、東京湾の環境破壊を世に問うた。自然から社会を見る3人の列伝。

9月6日(火)  
濱谷浩と緑川洋一

濱谷が撮った、胸まで泥につかって田植えする写真は、農地改善につながり、「見る」シリーズは公害を予見させた。色の魔術師、多重露光の緑川洋一は、最後までプロにはならず瀬戸内海の美しさを記録した。

12月6日(火)  
竹内敏信・関野吉晴・水谷章

風景のなかに隠れたドキュメントを描いた竹内、医師としてのまなざしも備えながらアマゾン源流の民を記録した関野、スポーツ写真のドキュメントという分野を開拓した水谷。3人の列伝。

# 04 ポストコロナ時代のライフスタイル 都市は変わるか

コロナ禍は、私たちの暮らしを一変させ、都市の脆弱性があらわになった。改めて、経済成長を重視する社会、経済のあり方を見直し、ポストコロナ時代における持続可能なライフスタイルに注目が集まっている。また、ポストコロナ時代は、深刻化する気候危機、拡大する格差・貧困

への対策などを視野に入れた社会のビジョンを描くことが重要となる。本講座では、「都市は変わるか」という問題意識のもと、「農の営み」「農の力」をキーワードにこれからの都市と都市生活者のライフスタイルについて考え、現場の実践者に学び、議論を深める。

●受講料

【コース1】オンライン講義＋フィールドワーク：15,000円(U25割：5,000円)

【コース2】オンライン講義のみ：10,000円(U25割：5,000円)

※フィールドワークは現地への交通費・食費・実費などが別途かかります



コーディネーター 小口広太

千葉商科大学人間社会学部 准教授 / PARC 理事

1983年長野県塩尻市生まれ。日本農業経営大学専任講師等を経て2021年より現職。専門は地域社会学、食と農の社会学。有機農業や都市農業の動向に着目し、フィールドワークに取り組んでいる。著書『日本の食と農の未来―「持続可能な食卓」を考える』(光文社新書 2021)。

オンライン講義

2022年6月～9月 / 原則として木曜日 19:00～21:00

●全5回 ●開催形式：オンライン (zoom)

6/23(木) 19:00～21:00

都市の再生と農の力



高木恒一

立教大学社会学部 教授 / 共生社会研究センター長

小口広太

千葉商科大学人間社会学部 准教授 / PARC 理事



講座のガイダンス。コロナ禍という経験を通じてライフスタイルが大きく変わろうとしている。「都市か農村か」という2分法に陥ることなく、都市の持続可能性と都市生活者のライフスタイルをどう変革できるのか、その可能性を農的コミュニティという視点から考える。また、都市は今、どのような現状にあるのか。都市の再開発が進む中、高齢化、人口減少という縮退の局面に入る都市の持続可能性について現状と課題を整理する。

8/19(金) 19:00～21:00

都市生活者と一緒につくる CSA の可能性



今村直美

一般社団法人風の色 代表理事 / 一般社団法人空(福祉職員) / 川村学園女子大学非常勤講師

千葉県我孫子市で新規就農し、CSA を立ち上げ運営していく中で、障害者と共に農業をしていく可能性に気付く。その後福島県に移住し、農福連携で取組む CSA × 都市生活者のライフスタイルの新たな実践を模索している。

9/1(木) 19:00～21:00

自然とともに、人を育てる農の力



小島希世子

NPO 法人農スクール代表 / (株)えと菜園代表取締役

神奈川県藤沢市で独立就農し、農業体験農園と就労支援に取り組んでいる。農の営みに関わることで、人びとのライフスタイルがどう豊かになり、人びとの人間的な成長につながるのか。農の営みが持つ潜在的な力について考える。

7/7(木) 19:00～21:00

街の未来を、田舎の未来を、  
人の未来を、先に生きてしまえ！



高坂 勝 NPO 法人 SOSA Project 主宰

過分に儲けられないビジネスを構築。週休三日で米作りで千葉と二拠点居住。後に移住。経済成長でしか青写真を描けない？経済成長を放棄した先を生きて、時代を先導しよう。

9/30(金) 19:00～21:00

都市のトランジションをデザインする



中野佳裕 立教大学21世紀社会デザイン研究科 特任准教授

ポストコロナ時代にどのようなライフスタイル、都市のあり方が求められるのか。脱成長、都市 commons をキーワードに、都市の中のトランジションについてみんなで議論する。

フィールドワーク

2022年7月、9月 / 土曜日 日中

●全2回 ●開催形式：対面(フィールド) ●定員：20名

7/23(土) 日中

【フィールドワーク：埼玉県草加市「ハラッパ団地」を訪ねる】

団地に畑があるということ



細越雄太

株式会社農業企画 代表取締役

ハラッパ団地・草加は、埼玉県草加市の元社員寮をリノベーションした賃貸住宅です。入居者や近隣住民が多様性を認め合い、共通体験を得るための一助として畑を設置しました。畑を中心にした農や食の企画を通じたコミュニティ形成に取り組んでいます。

9/17(土) 日中

【フィールドワーク：東京都多摩市「青木農園」を訪ねる】

都市で食と農をつなぐ



青木幸子 青木農園 代表

東京都多摩市で都市農業を実践し、直売に加え、母屋を改装して古民家レストランをオープン。都市生活者との近さをいかし、食を起点に農の大切さ、農の営みの豊かさを伝えている。食から農に接近し、都市農業を守り、どう持続可能な都市をつくれるのか考える。

# 05 平和のための日韓市民連帯——未来を創る市民の力

日本は2021年秋に「政治の季節」を迎えたが大きな変化はなく、むしろ新自由主義を高く掲げた勢力が大きく議席を伸ばした。米国バイデン大統領が新自由主義は成果を上げなかったと断言し、緊縮政策から大きな政府へと舵を切ろうとしているのとは真逆な動きになった。さて、韓国は22年前半が政治の季節になる。3月の大統領選挙と6月の統一自治体選挙で、普遍的福祉政策と財閥依存・小さな政府のどちらを選択

するかの岐路に立っている。

本講座では、韓国政治の季節の結果をふりかえりつつ、草の根から社会を支え、政治を変えていった韓国市民の取り組みに学んでいく。日本も同じように直面している問題に、韓国ではどのように向き合っているのか。市民の側から政策を立てていくプロセスを学び、ともに未来を創る日韓市民連帯を築くことをめざす。

2022年7月～11月

原則として月曜日19:00～21:00

●全8回 ●開催形式: オンライン(zoom)

●受講料: 15,000円(U25割: 5,000円)

※韓国語での講義回には、逐次通訳が入ります。



コーディネーター 白石 孝 PARC 共同代表

日韓市民交流を進める希望連帯代表、NPO法人官製ワーキングプア研究会理事長、NPO法人日本ロス子どもの未来理事長など。ソウル市の革新的自治政策をはじめ韓国の民主政権や自治体が普遍的福祉政策を進めていることを日本に紹介する活動を進めている。主著に『ソウルの市民民主主義—日本の政治を変えるために』(コモンズ 2018)など。キム・イエスル著『写真集 キャンドール革命—政権交代を生んだ韓国の市民民主主義』(コモンズ 2020)日本語版監修・解説。

7月11日(月)

大統領選挙と統一自治体選挙を振り返る

(1) ジャーナリストから



ソイドン 徐 義東

京郷新聞社 企画ディレクター

民主言論を基調とする日刊紙の元東京支局長が2つの選挙を振り返る。

10月17日(月)

日本の「おじさん」政治—韓国と日本の社会運動から



セン・ナガヤマサトコ・チョンジャ 梁永山 聡子

立教大学兼任講師/NPOアジア女性資料センター理事

加害者と被害者の立場の違いをふまえ、市民運動、労働運動、フェミニズムなどの日韓関係を考える。

7月25日(月)

大統領選挙と統一自治体選挙を振り返る

(2) 市民社会から



チョ ソンジュ 趙 誠柱

市民シンクタンク政治発電所 代表

進歩派政党(正義党)の市民シンクタンク代表で自治体の労働政策協力を務めている立場から、2つの選挙後の市民社会を語っていただく。

11月7日(月)

鼎談「物言わぬ、怒らない日本の労働者と立ち上がる韓国労働者」



李 正連 東京大学大学院 教授

藤田和恵 ジャーナリスト



白石 孝 PARC 共同代表

非正規労働者がものを言わない、言えない、怒らない日本の労働者を継続取材している筆者と日韓の違い、そしてもの言える日本をめざすための鼎談。

9月5日(月)

福祉政策と市民社会の変革

——恩恵から権利の福祉への転換



イスジン 李 水眞

ソウル市福祉財団/チャットン推進支援団長

チャットン(出かけていく福祉)が「生活保護」制度を大きく変えた韓国。では日本の生活保護はどうか。

11月28日(月)

市民が政策を創る



シン ミジ 慎 美智

参与連帯メディア広報チーム長

市民が政策を創る、「ソウル市広場条例」「高位公職者犯罪捜査処設置法」などを事例にして報告いただく。

9月10日(土)午後(予定)

韓国女性文学を日本に紹介するなかで

すんみ 翻訳家(予定)

韓国の若い世代は女性と男性とでフェミニズムへの意識が大きく異なっている。韓国女性文学を日本に紹介することを通して、では日本社会はどうかを共に考えたい。

9月26日(月)

地域を変える取り組み



ウィ ソンナム 魏 聖南

社団法人マウル 理事長

地域を「連帯と分かち合い」の視点から自主的に創りつつある「マウル」運動の実態を、地域で活動している研究者の視点から解説する。

## オプション企画

チャン クムスン

張 琴順さん(韓国料理コーディネーター)と韓国自然料理を作って食べよう!

※コロナの状況を見て可能であれば開催します。詳細が決まりましたら、PARC 自由学校ウェブサイトや本講座内でご案内します。



## 【PARC50周年記念講座】

# 市民活動をアーカイブする:記憶と記録の継承・活用のために

「情報は民主主義の血液」と言われますが、現実には日本政府による「公文書改ざん」や各種の記録廃棄が行われ、世界では戦争や選挙戦におけるフェイクニュースや歴史修正主義的な言説がインターネットを通じて大拡散される時代になりました。私たちは情報や歴史とどう向き合い、どういう立ち位置から世界を見つめていけばいいのでしょうか。

一つのヒントは、多岐にわたる市民活動の記録と記憶の蓄積にあります。市民活動の成果はすぐに表れるものではありませんが、10~30年というスパンで軌跡を振り返った時、実は望んでいた社会へと軌道を変えるインパクトを及ぼしたことがわかることもあります。国家や企業によらない、市民の目線での活動記録をアーカイブ化し、社会に向け可視化することは、これまで以上に重要です。市民活動を担う人たちが自身が、組織の意義に気づき、仲間や協力者を増やしたり、発信力を高めるようエンパワメントされることにもつながります。

この講座では、市民活動のアーカイブ化の重要性を広く講義編で学び、実践編では、アーカイブ化の方法を実際に手を動かしながら習得していきます。



コーディネーター 高木恒一

立教大学社会学部 教授 / 共生社会研究センター長

立教大学社会学部教授、立教大学共生社会研究センター長。専門は都市社会学。都市政策や都市の市民・住民運動について研究する一方、共生社会研究センターの運営にも携わる。主著に『都市住宅政策と社会—空間構造:東京圏を事例として』(立教大学出版会 2012)。

### 協カ 立教大学共生社会研究センター

立教大学共生社会研究センターは国内外の多種多様な市民活動の記録を収集・保管・公開するアーカイブズ。所蔵資料には1960年代・70年代を中心とした市民活動の一次資料やミニコミ類に加えて、海外の市民活動資料や市民活動と深く関わった鶴見良行氏・宇井純氏の研究資料など。

- 受講料 【コース1】 講義編+実践編:20,000円(U25割:5,000円)
- 【コース2】 講義編のみ:10,000円(U25割:5,000円)

※この講座は2023年のPARC設立50周年にむけて、自らの活動の記録を後世に伝えるためのプロジェクトの一環として開催します。

### 講義編

2022年5~6月 / 金曜日 19:00~21:00

- 全4回 ●開催形式:オンライン(zoom)

5/13(金) 19:00~21:00 総論:現代社会と記録・記憶



平野 泉 立教大学共生社会研究センター アーキビスト

渡辺美奈 アクティブ・ミュージアム

「わたしの戦争と平和資料館」(wam)運営責任者



内田聖子 PARC

高木恒一 立教大学社会学部  
教授 / 共生社会研究センター長



この講座の趣旨と意義を考える。市民の記憶と記録を残すことを実践しているwamの取り組みと、PARCが取り組もうとしている事業を紹介し、これを手がかりにこの講座の方向性を検討する。

### 実践編

2022年6~7月 / 木曜日 15:00~17:00

- 全4回 ●開催方法:対面(PARC自由学校教室)またはオンライン(zoom)の選択制 ※教室開催が困難な場合には、事態が収束するまでオンライン参加のみとする可能性があります。
- 定員:20名 ※実践編は講義編の議論を踏まえた内容になります。(講義編開始後に申し込まれる方は、PARC事務局へご相談ください。)
- ※実践編ではご自分が所属する団体やグループ、あるいはご自分のアーカイブズ資料を素材とします。手元に使用可能な素材がない方は、PARCのアーカイブ用資料をご利用いただけます。



講師 平野 泉

立教大学共生社会研究センター アーキビスト



講師 高木恒一

立教大学社会学部教授 / 共生社会研究センター長

### 特別オープン講座 5/20(金) 19:00~21:00(予定)

現代日本政治のなかの記録:公文書問題をを中心に

金平茂紀 ジャーナリスト

森友学園への国有地売却をめぐる財務省の公文書改ざん問題では、改ざんを強いられた近畿財務局の赤木俊夫さんが自死に追い込まれた。国土交通省の統計不正「桜を見る会」での記録廃棄...政府によるずさんな管理の例が後を絶たない。なぜ政府はここまで墮ちてしまったのか。近年多発する問題の構造と政治の問題について、第一線で活躍するジャーナリストの金平茂紀さんにお話しいただきます。

※特別オープン講座のため、この回のみ参加される一般参加者との合同受講となります

5/27(金) 19:00~21:00

歴史を学ぶことと記録:日本軍「慰安婦」問題と歴史修正主義



小野沢あかね

立教大学文学部 教授 / 共生社会研究センター運営委員

「慰安婦」問題に関する歴史修正主義の特徴はどこにあるか、史料に依拠するとはどういうことか、なぜ歴史修正主義が人々に受け入れられてしまうのかをお話いただく。

6/3(金) 19:00~21:00

記録・記憶を活かす:公害資料館ネットワークの取り組みから



林 美帆

公益財団法人水島地域環境再生財団(みずしま財団) 研究員

公害の記録と記憶を継承する公害資料館は多様な形で設立されており、個々の館の活動が積み重ねられている。市民活動の資料・記録の収集・保存とその活用の実践例を紹介いただく。

6/16(木) 15:00~17:00 アーカイブズとは何か

「アーカイブズ」に関する様々な概念、基本的な考え方や手法について学ぶ。

6/30(木) 15:00~17:00 私たちの活動を記録する:何を残すべきか(評価・選別、保存期間設定)

活動の記録はすべてを残せるわけではない。何をいつまで保存するのか、保存期間が終了した記録をどう処分するのかを決めるプロセスについて考える。

7/14(木) 15:00~17:00 誰でも探せるアーカイブズ:目録の作り方(編成・記述)

記録は保存しているだけでは使えない。記録をばっと思つて、どんどん使えるようにするための検索手段について、みんなで手を動かしながら考えていく。

7/28(木) 15:00~17:00 アーカイブズを市民社会のコモンズに:誰に、どこまで、どのように利用提供するのか、できるのか

前回の課題として作成した「検索手段」を手がかりに、利用条件やルール、閲覧のためのスペース、個人情報や著作権の問題、デジタル化の手順やオンライン公開のリスクとベネフィットなどの点について、それぞれの現場の状況に合わせて考えていく。

### オプション企画

立教大学共生社会研究センターへの訪問等、オプションツアーも企画中!

※コロナの状況を見て可能であれば開催します。詳細が決まりましたら、PARC自由学校ウェブサイトや本講座内でご案内します。



講座の進め方

少数者制・参加型のオンラインゼミです。初回オリエンテーションの後、各回の範囲を読み進めていきます。毎回の発表者を事前に決め、概要等を発表いただく予定です。その後講師からの解説と質疑応答・ディスカッションを行います。

# 07 著者と読む

## 『愛と差別と友情とLGBTQ+:言葉で闘うアメリカの記録と内在する私たちの正体』

日本でも急速に理解が進むLGBTQ+(性的少数者)問題ですが、この講座は最終的にはその「LGBTQ+」の視座を通して見えてくるこの世界の「有害な男らしさ」の仕組みを紐解いていきたいと思えます。2022年の時事問題(ニュース)もその都度タイムリーに絡めつつ、これまで見過ごしてきた歴史的な事例、あるいは映画や文学作品をも利用して日本と欧米における「人権」や「差別」「ジェンダー」に対する歩みの違いを検証します。概要は『愛と差別と友情とLGBTQ+』に沿いますが、受講者の方々にも講師が不在であった1993年から2018年までの日本の状況をもう一度想起してもらいながら、LGBTQ+問題にとどまらず、その視点から浮かび上がる日米の社会・文化の全体像と今後の課題をワークショップの形式で浮かび上がらせることを目的とします。



講師 北丸雄二

元東京新聞ニューヨーク支局長/ジャーナリスト

ジャーナリスト、コラムニスト。1993年から東京新聞NY支局長、96年に在NYのまま独立。2018年からは東京を拠点にラジオ及びネット番組などでニュース解説の他、政治や文学評論およびブロードウェイの上演台本翻訳など訳書も多数。2021年9月刊行の『愛と差別と友情とLGBTQ+』で「紀伊國屋じんぶん大賞2022」2位。

【テキスト】 北丸雄二『愛と差別と友情とLGBTQ+:言葉で闘うアメリカの記録と内在する私たちの正体』人々舎 2021



2022年7月～12月 木曜日19:00～21:00 ●全10回 ●開催形式:オンライン(zoom) ●定員:25名 ●受講料:25,000円

7/21(木)

第1回「オリエンテーション/自己紹介」

9/29(木)

第5回「ポリコレとは何か？」

11/10(木)

第8回「スポーツと社会運動」

8/4(木)

第2回「エイズの時代」

10/13(木)

第6回「時代は変わる」

11/24(木)

第9回「演劇界、芸能界、文学界」

8/25(木)

第3回「エイズとコロナ」

10/27(木)

第7回「閉塞する日本」

12/8(木)

第10回「私たちは何者なのか？」

9/15(木)

第4回「英語の世界、日本語の世界」

# 08 『モモ』で読み解く知識ゼロからの経済学入門

## ——「お金」はなぜ格差と分断を生むのか

今、お金・経済の捉え方が危険なほど歪んでいます。「儲けるのは投資で」の意識が高まり、新聞でも「安易なFIRE(経済的自立と早期リタイア)にご注意」という特集が組まれるほど。そしてそのしわ寄せは実は、低賃金で働かされる若い世代に転嫁されています。ミヒヤエル・エンデが「お金」をテーマに書いた『モモ』。「お金」が支配する私たちの社会を、エンデはどう見たのでしょうか。そして、この物語を経済学からひも解くと、何が見えてくるのでしょうか。この講座では、コーディネーターが『モモ』のサブストーリーとして書いた物語『モモと経済学者カール・マルクスが会話したらどうなる?』を参考に、お金・投資・経済がはらむ現代の問題点を、経済知識ゼロの人でもわかるように読み解いて

いきます。高校で「金融教育」が必修化した今、改めてお金の意味を根本から考える講座です。



講師 嶋 崇

経済学研究者/編集者

元・主婦の友社雑誌編集長。古典派経済学、特にマルクス経済学を中心として現在の経済・社会問題の分析を行う。主著に『いまこそ「資本論」』(朝日新聞出版 2008)。

【テキスト】 ミヒヤエル・エンデ作、大島かおり訳『モモ』岩波書店 2005



2022年8月～12月 月曜日19:00～21:00 ●全8回 ●開催形式:オンライン(zoom) ●定員:25名 ●受講料:25,000円

8/1(月)

プロローグ:拡大する現代の矛盾を予言した『モモ』——あなたは『モモ』を読んで何を感じましたか？

10/24(月)

過酷な働き方は何のため、誰のためか——自分の秘書に「奴隷監督！」と叫ぶジジから隠された事実を紐解く

8/29(月)

エンデが「金融経済」を最期まで危惧した理由  
ゲスト講師 河邑厚徳 映画監督/元NHKプロデューサー



11/14(月)

働く若者はなぜ使い捨てにされるのか——「人間なんていらぬものになっている」と叫ぶ灰色の男の本心

9/12(月)

お金・貯蓄・投資がはらむ危険性——時間をためるってどういうこと？時間貯蓄”銀行”とお金の関係を探る

12/5(月)

「お金」と「ゆたかさ」の関係を根本から問い直す——モモが取り戻した時間とは？みんなに戻った本当のゆたかさとは？

10/3(月)

不機嫌で不寛容な現代の資本主義——時間をためることで忙しく不機嫌になる居酒屋主人ニノ

12/19(月)

エンデからのメッセージで見つめ直す私たちの社会  
ゲスト講師 (交渉中)



## 09 知って使おうアイヌ語 ——世界の言語復興の動きとつながる

この講座では、アイヌ語をマオリ語の言語復興に用いられた「テ・アタランギ」という方式を用いて、実践的なかたちで(=イマージョン+後からの丁寧な解説の組み合わせ)身につけ、実際にアイヌ語で自己紹介ができるようになることを目指します。また、アイヌ語がどのような特徴をもつ言語なのかを理解することを目指し、丁寧に解説をします。後半では、節をつけて語られるアイヌ語の物語を、アイヌ語を理解しながら覚えて語って(うたって)みることに挑戦します。同時に、アイヌ語の「いま」を取り巻く様々な取り組みと、それが世界の言語復興の動きのなかにもどのように位置づけられるかをゲストスピーカーの講義を通じて考えていきます。

**2022年6月～12月 金曜日19:00～21:00**

- 全11回 ●開催形式:対面(PARC自由学校教室)またはオンライン(zoom)の選択制
- 定員:20名 ●受講料:42,000円

※教室開催が困難な場合には、事態が収束するまでオンライン参加のみとする可能性があります。



講師&コーディネーター **藤田 護**  
慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス環境情報学部 専任講師

ラテンアメリカのアンデス高地の先住民をめぐる研究をしていて、そこで先住民の言葉であるケチュア語やアイマラ語を学ぶ過程で、日本でもアイヌ語を学び、アイヌ語を現代の日常に回復しようとする動きに関わるようになりました。PARCでも以前にアイマラ語の講座を担当したことがあり、その後ケチュア語の神話を読むサークル活動として現在まで続いています。著作に、千葉大学アイヌ語研究会編『沼田武男「採訪帖」—アイヌ語十勝方言テキスト集』国立大学法人千葉大学 2021など。



**6/10(金)**

オリエンテーション 互いの名前を聞き合う

**6/24(金)**

どこから来たのかを尋ねる(人称接辞1)  
現代のアイヌ社会とアイデンティティの葛藤

**7/8(金)**

基本動作を示すアイヌ語の動詞(人称接辞2、動詞の単数形と複数形) アイヌの展示のされ方をめぐる問題

**7/22(金)**

アイヌ語を日常生活に取り戻す動きの最先端で  
ゲスト講師:関根健司(平取町教育委員会)

北海道の二風谷を中心にアイヌ語を取り戻す運動の中心的存在である関根健司さんから、この講座でも取り入れている「テ・アタランギ」と呼ばれる方法を導入した経緯やアイヌ語を身につけるために大切なことなどを話してもらい、質疑応答と議論をおこないます。

**7/29(金)**

身体のパーツ(名詞の概念形と所属形)  
アイヌ語の「いま」

**10/7(金)**

バスク文学から見るバスク語復興  
ゲスト講師:金子奈美(慶應義塾大学)

スペイン側ではフランコ将軍の独裁期に使用を禁止され、話者数を大きく減らしたバスク語は、民主政に復帰後は学校教育を通じてバスク語を身につけた、いわゆる「ニュースピーカー」と呼ばれる者が生まれてきました。バスク語文学の日本語翻訳で受賞もされている金子奈美さんから、バスク文学にこの動きがどのように現れているかを話してもらいます。

**10/21(金)**

カムイとは何か・アイヌ語の口承文学の概説  
カムイユカラの暗唱(その1)

**11/4(金)**

ニュージーランド先住民マオリの言語復興  
ゲスト講師:岡崎享恭(近畿大学)

いまアイヌ語で取り組まれている「テ・アタランギ」は、元々はマオリ(ニュージーランド)の人々が自らの言語を取り戻していく過程で生まれた方法です。この過程を追いかけてきて、アイヌ語への導入にも重要な役割を果たした岡崎さんから話を伺います。

**11/18(金)**

アイヌ語の口承文学の語りと人称  
カムイユカラの暗唱(その2)

**12/2(金)**

知里幸恵を振り返りながら(対談セッション)  
ゲストスピーカー予定調整中

アイヌ語を学ぶ者にとって知里幸恵、知里真志保、金成マツ、金成モナシノウクの一家は重要な存在であり続け、特に知里幸恵が遺した『アイヌ神謡集』は最も知られたアイヌ語の作品と言えるでしょう。ここでは、ゲストスピーカーを招いて、ご自身にとっての知里幸恵という存在やアイヌ語というものについて広く語っていただきます。

**12/16(金)**

アイヌ語口承文学が示す歴史認識  
カムイユカラの暗唱(その3)

**オプション企画** 平取町二風谷での短期合宿も企画中!

※コロナの状況を見て可能であれば開催します。詳細が決まりましたら、PARC自由学校ウェブサイトや本講座内でご案内します。

# 10 ケイトの”What's Happening In The World!?”

ニュース記事や映像など、様々な英語コンテンツを読んだり、見たりしながらインスピレーションを得て、議論していきます。インドやオーストラリアでの環境保護運動を調査・研究する国際政治学徒で、ご自身も日本の自然や文化を愛するエコロジストのケイトさんを講師に、英語での表現を楽しく、そして丁寧に学んでいきます。会話やエッセイ等を通して、自分の意見をはっきりと伝える力もつけていきましょう。

2022年6月～12月

原則として隔週土曜日 15:00～17:00

- 全12回 ●開催形式: オンライン(zoom)
- 定員: 15名 ●受講料: 38,000円



講師 ケイトリン・ストロネル

NPO 法人原子力資料情報室スタッフ／浅川金刀比羅神社神主

オーストラリア出身。高校生の時に交換留学生として初来日。慶應義塾大学大学院で政治学を専攻。その後インド・ネール大学で博士号を獲得。神主、環境運動家など多彩な顔を持つ。3.11で原発の危険性に目覚め、現在はNPOのスタッフとして脱原発の世界を目指している。

こんな人におすすめ!

- 環境問題や社会問題について英語でディスカッションできるようになりたい方
- 日本の社会・文化について英語で説明できるようになりたい方

日程	第1回: 6/18	第4回: 7/30	第7回: 10/1	第10回: 11/12
	第2回: 7/2	第5回: 9/3	第8回: 10/15	第11回: 11/26
	第3回: 7/16	第6回: 9/17	第9回: 10/29	第12回: 12/10

# 11 武藤一羊の英文精読

講師とともに、一冊の本をじっくりと読み込む講座です。ことばの一つひとつの解釈やそこに込められた作者の思想を読み解きながら、講師と受講生で内容について議論を深めていきます。今年は、デヴィッド・グレーバー、デヴィッド・ウエングロウ著『万物の夜明け—新しい人類史』を読みます。

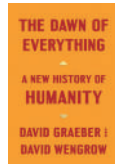
2022年6月～2023年1月

原則として隔週水曜日 19:00～21:00

- 全15回 ●開催形式: 対面(PARC自由学校教室)またはオンライン(zoom)の選択制
- 定員: 15名 ●受講料: 46,000円

※教室開催が困難な場合には、事態が収束するまでオンライン参加のみとする可能性があります。

【テキスト】 David Graeber & David Wengrow, "The Dawn of Everything: A New History of Humanity", Random House, U.K. 2021(デヴィッド・グレーバー、デヴィッド・ウエングロウ著『万物の夜明け—新しい人類史』)



講師 武藤一羊

ピープルズ・プラン研究所 運営委員

1931年生まれ。「ベトナムに平和を!市民連合」での活動を経て、1969年に英文雑誌『AMPO』の創設メンバーとして日本の情勢を世界の知識人に発信する。1973年鶴見良行、北沢洋子などととも「アジア太平洋資料センター(PARC)」を設立、1996年まで代表を務める。1998年「ピープルズ・プラン研究所」を設立。社会評論家としてノーム・チョムスキーなどの知識人と国際的な親交をもつ。1983-2000年、ニューヨーク州立大で期間教員を務める。

講師からのメッセージ:

今年はこういうすごい本に喰い付いて見ることにします。グレーバーはいま人気のアナキスト人類学者、惜しいことに2020年に亡くなってしまいましたが、この彼が、考古学者のウエングロウとの長年の討論のなかで、人類というものの近代の自己認識、段階的發展史観、が出发点からして間違っていたのではないか、という見解に達し、ともに書き上げたのがこの書物であるようです。誤りの出発点は農業革命以前の人類の文明についての認識。人新世のなかで(人類文明)の全体が問われているまさにいまのための労作です。学術論文の文体ではないので、読みやすいが、500ページ余の分量。新しい読み方を工夫してみましょう。

こんな人におすすめ!

- 一冊の本を深く読み込む力を身につけたい方
- グローバル化した資本主義の先の未来について考察・議論してみたい方

日程	第1回: 6/15	第3回: 7/13	第5回: 8/24	第7回: 9/21
	第2回: 6/29	第4回: 7/27	第6回: 9/7	第8回: 10/5

第9回: 10/19	第11回: 11/16	第13回: 12/14	第15回: 1/25
第10回: 11/2	第12回: 11/30	第14回: 1/11	

# 12 世界のニュースから国際情勢を読み解こう

インターネットや雑誌、新聞の英文記事を読み、その背景も学びながら日本語で議論する講座です。開発、経済、貿易、食の問題など、日本や世界の情勢についてのトピックから、参加者とともにテーマを選んでいきます。英語の文章を読み解く力、日本語らしく訳す力、そして溢れる情報を判断する力を身につけると同時に、様々なものの見方や考え方に会えることができます。

2022年6月～2023年1月

原則として隔週火曜日 10:30～12:30

- 全15回 ●開催形式: 対面(PARC自由学校教室)またはオンライン(zoom)の選択制
- 定員: 15名 ●受講料: 42,000円(U30割: 5,000円)

※教室開催が困難な場合には、事態が収束するまでオンライン参加のみとする可能性があります。



講師 廣内かおり アフリカ日本協議会 事務局長

市民団体のメンバーとして遺伝子組み換え問題やTPP問題等の翻訳、通訳に協力しながら、フリーランスとしても翻訳を行う。共訳書にリチャード・J・サミュエルズ『3.11震災は日本を変えたのか』英治出版2016など。



講師 田中 滋 PARC 事務局長

米国コーネル大学大学院在学時からACORN(Association of Community Organizations for Reform Now)をはじめとする米国における低所得者層を支援する社会運動に関わる。帰国後は環境NGO A SEED JAPAN事務局を経て現職。社会的連帯経済を推進する大陸間ネットワーク(RIPESS)など国際的なNGOネットワークの理事も担う。

こんな人におすすめ!

- 日本ではあまり伝えられないニュースの裏側を知りたい方
- NGOや独立系メディア、批評家の視点や分析を知りたい方

日程	第1回: 6/14	第3回: 7/12	第5回: 8/23	第7回: 9/20
	第2回: 6/28	第4回: 7/26	第6回: 9/6	第8回: 10/4

第9回: 10/18	第11回: 11/15	第13回: 12/13	第15回: 1/24
第10回: 11/1	第12回: 11/29	第14回: 1/10	

# 13 治安維持法

## ——いま現場から問う、国家による暴力と監視の歴史

「国体の変革」や「私有財産制度の否認」を目的とする結社を取り締まるために1925年に制定された治安維持法。しかし、「思想」を裁くこの法の取り締まり対象は一般市民に及び、アジア・太平洋戦争敗戦後に廃止されるまで膨大な逮捕者と犠牲者を生み続けました。社会と人間を破壊し、今も深い傷を残しています。植民地であった朝鮮半島や台湾では本土以上に過酷に用いられたことも明らかとなっています。法の名の下で繰り広げられた国家の暴力は、遠い過去のものなのか？ 治安維持法の歴史の第一人者である荻野富士夫さんを迎え、新たな知見とともにその実態に迫ります。2回のフィールドワークも行います。

2022年7～11月  
火曜日19:00～21:00あるいは土曜日午後

●全8回 ●定員:18名 ●開催形式:対面(千代田区内(予定)ほか)  
●受講料:35,000円

※出かける回は現地への交通費・食費・実費などが別途かかります



講師&コーディネーター 永田浩三 武蔵大学 教授/ジャーナリスト

1954年大阪生まれ。1977年NHK入社。ディレクターとして教養・ドキュメンタリー番組を担当。プロデューサーとして『クローズアップ現代』『NHKスペシャル』『ETV2001』等を制作。2009年から武蔵大学社会学部教授。編著書に『フェイクと憎悪』など。ドキュメンタリー映画『闇に消されてなるものか』を制作。○主著:『ヒロシマを伝える 詩人・四国五郎と原爆の表現者たち』WAVE出版 2016/『奄美の奇跡』WAVE出版 2015



7/12(火) いま改めて治安維持法を問う

荻野富士夫 小樽商科大学 名誉教授



7/26(火) 植民地朝鮮や台湾でどう運用されたか

荻野富士夫 小樽商科大学 名誉教授



8/27(土)午後 長野県2.4事件

今井昌美 「2.4事件」研究者/元教師



9/13(火) 俳句や川柳も弾圧された

永田浩三 武蔵大学 教授/ジャーナリスト



10/1(土)午後 【横浜拘置所フィールドワーク】

横浜事件についてどこまでも追及する

木村まき 横浜事件再審請求人



10/11(火) 北海道生活図画事件を歩いて

川嶋均 東京藝術大学 非常勤講師(ドイツ語)



10/25(火) 治安維持法・家族の記憶—今、思うこと

横湯園子 元北海道大学教育学部教授・元中央大学文学部教授



11/12(土)午後 【豊多摩刑務所フィールドワーク】

どのように抵抗したのか

荻野富士夫 小樽商科大学 名誉教授

# 14 畑で実践!!〈たね〉からはじまる無肥料自然栽培

埼玉県の柳瀬川近くにある広々とした畑で、固定種・在来種の〈たねとり(自家採種)〉を基本とし、農薬・化学肥料や有機肥料に頼らず、自然や土の力を生かした無肥料自然栽培の基本を実習で学んでいく実践講座です。農作業が初めての方でも、実際に作業を行いながら講座を進めていきますので無理なく続けられます。この道18年のベテラン講師の講習は家庭菜園を長く続けている方にも好評!畑に通い、野菜を育てながら、種まき、育苗、植付、間引き、収穫、母本選抜、種とり(脱粒)、芽かき、摘心、剪定、移植、など一通りの作業を実践で身につけていきましょう。〈たねまき〉から〈たねとり〉まで、いのちのサイクルを感じる自然栽培をはじめてみませんか?

2022年3月～2023年2月  
原則毎月第1・第3日曜日 9:00～12:00(予定)

●全24回 ●定員:25名 ●菜園の場所:H.S.S.圃場 埼玉県富士見市(東武東上線 柳瀬川駅より徒歩15分程度)  
●受講料:64,000円(指導料、農具・資材使用料、プランター代、保険料込)  
●企画運営協力:H-seed to seed(HSS)



講師 関野幸生

無肥料自然栽培を始めて19年目。無肥料自然栽培の普及のため各地で講演活動を行なう。『固定種野菜の種と育て方』を飯能市の野口種苗研究所、野口勲氏と共著にて創森社より出版。

2022/3/17(木) 19:00-21:00 オリエンテーション

●畑での実践講習(予定)

2022年

3月20日 5月22日 7月17日 9月18日 11月20日  
4月3日 6月5日 8月7日 10月2日 12月4日  
4月17日 6月19日 8月21日 10月16日 12月18日  
5月8日 7月3日 9月4日 11月6日

2023年

1月15日  
1月22日

●間伐材プランターづくり 2月5日、2月11日どちらか1日

2023年2/12(日) 14:00-16:00 最終講習・ふりかえり

※日程・内容は天候等の状況に合わせて変更することがあります。ご了承ください。 ※途中からのご参加も可能な場合があります。PARC事務局までお問い合わせください。



# 15 バイオダンサ:生きる・はぐくむ・歩く

バイオダンサ(Biodanza=いのちのダンス)は、南米チリの教育者、詩人、人類学者、心理学者のロランド・トーロが、人間の潜在力の回復を願って編みだしたダンス・ワークです。音楽のリズムやメロディーを呼び水に、内から、外から、生じてくる動き。うまくできたかどうかよりも、その瞬間湧いてくる、言い表しようのない、手応えや実感そのものを大事にしていきます。参加するひとりひとりが、日々を、人生を、歩いてゆくうえで大切にしたい何かに、あらためて触れることができるよう、みなさんと場を創造していきたいと思っています。

2022年7月～12月

原則隔週木曜日 19:00～21:30

- 全13回 ●定員:12名 ●開催形式:対面(千代田区内(予定)ほか)
- 受講料:55,000円

※出かける回は現地への交通費・食費・実費などが別途かかります



講師 内田佳子 国際バイオダンサ連盟公認ファシリテーター

ブラジル音楽に惹かれ、サンバチームでの活動を経て、ブラジルの住民運動を支援するNGOに参加。ブラジルでバイオダンサに出会い、2000年に初めてバイオダンサを日本に紹介。ファシリテーター資格、養成資格、子ども・思春期向けファシリテーター資格を取得。定期クラスやワークショップを開催しつつ、自らも様々なワークや勉強会に参加し、心と身体をつなぐを探究し続けている。日本ソマティック心理学協会会員。同ソマティック・プラクティショナー・ネットワーク世話人。

- |                       |                         |
|-----------------------|-------------------------|
| 7月 7日 《はじまりのとき》       | 10月13日 《「型」をつうじて源泉に触れる》 |
| 7月21日 《動きを味わう》        | 10月27日 《関係性を脈動する》       |
| 8月 4日 《遊び、ほころぶ》       | 11月10日 《Untitled》       |
| 8月20日 《日帰りリトリート》      | 11月24日 《表現にひらかれる》       |
| 9月 1日 《心地よさに寄り添う》     | 12月 8日 《Untitled》       |
| 9月15日 《対極を脈動する》       | 12月22日 《おわりのとき》         |
| 9月29日 《内なる自然のエLEMENT》 |                         |

# 16 表現することは生きること

今を生きる新しい視点が見え、ともに生きるエネルギーが湧いてくる講座です。色々な意味で便利になった現代社会。しかし現代ほど人間が分断され、孤独を強いられる時代はないのでしょうか。コロナ禍のような社会全体を揺るがすような時代はより不安が高まり、インターネットで様々なつながりが可能になった反面、人はさらに分断され孤独の中で生きようになっています。そして、美しい理念や社会的正義すら人を分断するものとして機能しています。アートは現代社会を反映し象徴するもの。アートという一見曖昧で感覚的な現われの中に忘れられている大切なものが詰まっています。個人の思想や社会への問題提起から、スパッと割り切れない曖昧な感覚、戸惑い、矛盾や混乱、葛藤といったものまでも、〈感じる〉ことを通じて共有していきます。この講座では、「講義・解説」を聞いてアートを理解するだけでなく、〈感じることを人と共有・「ダイアログ」し、絵を描き、立体作品をつくることを通じて表現の原点についてより深く知っていきます。アートを通じて何かしたい、人とつながりたい方だけでなく、美術やものづくりに苦手意識がある方にこそおすすめ。ひとりで作品と向き合うだけでは見えてこなかった視点や新しい自分自身を発見することができるでしょう。

2022年7月～12月

原則隔週木曜日 19:00～21:30

- 全12回 ●定員:14名 ●開催形式:対面(PARC 自由学校教室ほか)
- 受講料:48,000円(材料費・画材費込)

※出かける回は現地への交通費・食費・観覧会費などが別途かかります



講師 中津川浩章 画家/アートディレクター/フリーキュレーター

ブルーバイオレットの線描を主体とした大画面のドローイング・ペインティング作品を「記憶・痕跡・欠損」をテーマに国内外で展覧会を開催。アートによる社会変革、「できないことからつながる社会」を目指す。障害者施設「工房集」や「アール・ド・ヴィーヴル」のアートディレクション、展覧会の企画・プロデュース、大学・専門学校でアートを通じたコミュニケーションスキル開発やデザイン・美術教育に携わる。福祉、教育、障害など、具体的な社会とアートの関係性を問い直しつつ、障害の有無にかかわらず、子どもから大人まで、様々な人を対象としたアートワークショップ、講演、ライブペインティング等、全国各地で活動。

7/14(木)

リレーして絵を描く:「対話しながら一枚の絵を見てみよう」

7/28(木)

「印象派とV・ゴッホとヨーロッパの近代」(点描体験)

8/6(土)午後 【国立西洋美術館「自然と人のダイアログ」展を訪ねる】  
展覧会を見に行きその印象をダイアログ

8/25(木)

講師と一緒にライブペインティング

9/8(木)

プレゼンテーションと講評 その1

9/22(木) 「自分って何だろう？」アートセラピー(写真でつくるマンダラ・コラージュ)

10/6(木) 「夢・表現・シュルレアリスム、

作家の田口ランディさんを交えて」(夢ドローイング)

ゲスト講師:田口ランディ(小説家)



10/20(木)

「イメージと記憶の交差点」(自分だけの写真集制作)

11/3(木) 終日

【終日講座】「自画像は語る」(様々な視点から自画像を描く)

11月で調整中 【神奈川県小田原市を訪ねる】

アート施設「アール・ド・ヴィーヴル」を訪ねる

12/1(木) 「表現の本質って？」アールブリュットとアートセラピー(自由な素材で表現)

12/15(木)

プレゼンテーションと講評 その2

【PARC50周年記念講座】

問い続ける者たち——アジアと日本の歴史から描く未来

1973年に設立したアジア太平洋資料センター (PARC) は、来年の2023年で50周年を迎えます。英文『AMPO』を通じた国際連帯、企業のアジア進出の裏で起こった環境破壊や人権侵害の告発、身近なモノを通してグローバリゼーションを考える市民調査、国際行事ピープルズ・プラン21、そしてODAや貿易、債務などに関する国境を越えた監視と提言——。50年の活動は多岐にわたり、時代とともに変化してきました。しかし、PARCの設立時に掲げた「私たちが変わること、南と北の人びとが対等・平等に生きることのできるオルタナティブな社会をつくる」という理念は今も変わりません。この講座では、設立50周年に向けた取り組みの一環として、これまで活動の中心を担って来られた諸先輩を講師に、PARCでの経験やその成果・意義、課題や失敗、当時の思いなども含めて、じっくりとお話いただきます。会員、理事、事務局はもちろん、多くの方と時代の流れと変容を共有した上で、国内・国際的な運動の未来に向けた議論をするような時間をイメージしています。



2022年4月～2023年2月

金曜日10:30～12:30

- 全12回 ●開催形式: オンライン (zoom)
- 受講料: 各回1,000円

※ PARC 会員、25 才以下の方、生活困窮者の方は無料でご受講いただけます。  
※ 詳しい参加方法は、お申し込み・入金まで完了された方に、開催日前日までにご案内いたします。

PARC50 周年記念事業の詳細については PARC のウェブサイトをご覧ください。また、記念事業へのボランティアも募集中です。詳細は PARC 事務局までお問い合わせください。



**4月8日**  
「戦後日本国家」と社会運動の概説  
— PARC 前史として  
武藤一羊 ピープルズ・プラン研究所 運営委員



**5月13日**  
アジアの民衆連帯と  
PARC が果たした役割  
武藤一羊 ピープルズ・プラン研究所 運営委員



**6月10日**  
なぜ私が「ベ平連」に関わるようになったのか  
Douglas Lummis 沖縄キリスト教大学客員教授 / 「平和を求め  
る退役軍人の会琉球・沖縄国際支部」(VFP-ROCK) 代表



**7月8日**  
民衆の視点でアジアを歩く  
内海愛子 恵泉女学園大学 名誉教授



**8月5日**  
アジアを歩く調査研究  
鶴見良行、村井吉敬の仕事から  
宮内泰介 北海道大学 教授 / さっぽろ自由学校「遊」共同代表



**9月2日**  
国際民衆連帯としての PP21  
大橋成子 ピープルズ・プラン研究所 運営委員



**10月14日 (予定)**  
PP21「水俣宣言」を改めて読む  
— 水俣が世界に問いかける課題  
谷 洋一 NPO 法人水俣病協働センター / 水俣病被害者互助会



**11月11日**  
アジアと日本の農民運動をつなぐ  
大野和興 ジャーナリスト / 日刊ベリタ 編集長



**12月9日**  
グローバル経済への批判と提言  
— IMF・世界銀行・WTO  
井上禮子 バルシック 代表理事



**2023年1月13日**  
人々による平和づくりと民際協力への道  
— 東ティモール  
井上禮子 バルシック 代表理事



**1月27日**  
民際協力運動体を育むスリランカ社会  
中村尚司 バルシック 理事 / 龍谷大学 研究フェロー



**2月10日**  
開発援助の功罪 — NGO・市民社会の50年  
神田浩史 フェアトレードタウン垂井推進委員会 会長 /  
NPO 法人泉京・垂井 副代表理事

## 来るモノ・行くモノを通して考えるアフリカと日本

遠いようで近いアフリカと日本。私たちが日々よく目にする身近な「もの」の中にも、アフリカから来たものがあります。一方、アフリカの人々が日々目にするものの中にも、日本から来たものがあります。アフリカと日本の間を行き交う「もの」を探っていくと、アフリカと日本、世界の関係の「過去」と「いま」が見えてきます。日本とアフリカの政府間会合「TICAD8」が開催される今年、「もの」を通じたアフリカと日本の市民の「新しいつながり方」を考えてみませんか。

2022年4月～6月  
木曜日19:00～21:00

- 全5回 ●開催形式:オンライン(zoom)
- 受講料:各回1,000円

※詳しい参加方法は、お申し込み・入金まで完了された方に、開催日前日までにご案内いたします。

共催:特定非営利活動法人 アフリカ日本協議会 (AJF)

### ●コーディネーター



津山直子

アフリカ日本協議会 共同代表

南アフリカ・アパルトヘイト撤廃の国際連帯運動に関わり、1988-92年 ANC(アフリカ民族会議)駐日代表部勤務。1992-2009年は日本国際ボランティアセンター(JVC)南アフリカ代表で、農村やスラム地区で教育・地域復興などに携わる。帰国後、大学講師など。現在、明治学院大学国際平和研究所研究員も務める。



玉井 隆

アフリカ日本協議会 共同代表 / 東洋学園大学 専任講師

2015年東京大学大学院総合文化研究科博士課程単位取得満期退学。同年博士号[学術]取得。在ナイジェリア日本大使館・専門調査員、立命館大学生存学研究センター・客員研究員、亀田医療大学非常勤講師などを経て、現在アフリカ日本協議会・代表理事、東洋学園大学・専任講師。また大東文化大学法学部非常勤講師、慶應義塾大学文学部非常勤講師。著書に『治療を渡り歩く人びと』(風響社2020)など。



稲場雅紀

アフリカ日本協議会 国際保健ディレクター

90年代、横浜の日雇労働者の街・寿町での医療・生活相談活動や、LGBTの人権の確立に関わり、2002年からアフリカ日本協議会でエイズの課題や国際保健政策、海外の多様な市民社会との連携・協働に取り組む。共著書に、南博・稲場雅紀『SDGs 危機の時代の羅針盤』(岩波新書 2020)、木戸衛一編『「対テロ戦争」と現代世界』(御茶の水書房 2006)など。

### 4月14日 タコ:スーパーの定番商品「モロッコ」「モーリタニア」産のタコから見えるもの



岩崎有一 ジャーナリスト(アジアプレス)

箱山富美子

元ユニセフ職員 / 元藤女子大学教授



世界最大のタコ消費国、日本。輸入タコの約3割を占める、アフリカ北西部「モロッコ産」のタコは、実は50年近くにわたってモロッコの占領下にある西サハラ沖合でとれたもの。スーパーで「モロッコ産」のタコを買うことが、占領への加担につながる現実がある。一方、輸入タコの4割を占めるモーリタニアは日本との協力でタコを輸出産業としてきた。その経緯と課題も学ぶ。



### 4月28日 チョコレートやドライフルーツ: アフリカの生産者につながる「食料主権」



稲川義隆 アフリカンスクエア 取締役食品部部長

在日アフリカ人ゲスト  
ラベマノロンツ ハリファラ  
Rabemanolontsoa Harifara  
京都大学研究員 / マダガスカル出身



生産・加工・流通・消費のフードシステムがより複雑になっている中で、何を産し、食べるかを自分たちで選ぶ「食料主権」という考え方があります。アフリカの生産者につながり、オーガニックなチョコレートやお茶、ドライフルーツ、はちみつなどを、公正で対等な関係の下に輸入している「アフリカンスクエア」の食品担当者が、「食料主権」の考え方を軸にアフリカの食品の価値や魅力について語る。

### 5月26日 アフリカンアート:固定観念や西欧中心的な価値観を超えた結びつきを目指して



緒方しらべ

京都精華大学国際文化学部・グローバルスタディーズ学科 講師

とくに1990年代半ば以降、「伝統的」な仮面から「現代」アートまで多様なアフリカンアートが日本でも展示されたり販売されたりするようになり、多くの人を魅了してきた。他方で、多様なアートとはいえ、欧米経由のものや、日本側の固定的なアフリカのイメージに沿ったものばかりが受容される傾向も根強くある。こうした現状をふまえ、アフリカンアートを通じてアフリカと日本をつなげる実践を、具体的な事例を通じて紹介したい。

### 6月9日 まとめ:もののでつながるアフリカと日本:双方の市民がつくるオルタナティブな関係



津山直子

アフリカ日本協議会 共同代表

玉井 隆

アフリカ日本協議会 共同代表 / 東洋学園大学 専任講師



稲場雅紀

アフリカ日本協議会 国際保健ディレクター

アフリカと日本の関係は、南北格差を前提とした不公正な関係からいまだに脱却できていない。その一方、市民同士の対等な関係を目指す取り組みも進む。人口減や産業衰退に悩む日本の地方自治体と、力を増すアフリカとの新たな関係も生まれている。今夏開催予定の政府間会合「TICAD」を前に、市民同士が作るオルタナティブを探る。

### 5月19日 アフリカビジネス動向と銚子のサバ等水産物輸出について(予定)



佐藤 丈治(予定)  
JETRO 海外調査部  
中東アフリカ課 課長

在日アフリカ人ゲスト  
カマラ アナ  
Kamara Anna  
西アフリカ出身



国産サバの輸出が増えている。ナイジェリアやガーナなどアフリカでの需要が急増しているため、日本一の水揚げ量を誇る銚子港でもサバは主要な輸出品だ。日本とアフリカの水産物によるつながり、サプライチェーンや現地での消費動向を知る。調理方法や人気のサバ缶についても紹介する。

## ワンコイン・シネマ・トーク

「グローバル化」が語られて久しい今日。私たちにとって身近なモノやサービスも、グローバルな企業活動と無縁でなく、世界各地での出来事と国内での動向はますます複雑に関連するようになっていきます。しかし、華々しく語られるグローバル経済の裏側では、つねにそれぞれの現場で生きる生活者や労働者の姿があります。アジア太平洋資料センター (PARC) では、こうした身近なモノやサービスの裏にある構造や人権・環境問題に迫る映像作品を制作しています。ワンコイン・シネマ・トークでは、PARC 映像作品を講師の解説付きで鑑賞し、そのテーマをめぐって日本と世界で何が起きているのか、私たちの取り組むべき課題とは何かを一緒に考えます。



2022年5月～12月 19:00～21:00

●全3回 ●開催形式:オンライン (zoom) ●受講料:各回500円

※詳しい参加方法は、お申し込み・入金まで完了された方に、開催日前日までにご案内いたします。

5月23日 (月) 19:00～21:00

全国初の“水道民営化”？—みやぎ型コンセッション方式の何が問題か



佐久間敬子

命の水を守る市民ネットワーク・みやぎ 共同代表 / 弁護士



内田聖子  
PARC 共同代表

上映作品

『どうする？日本の水道—自治・人権・公共財としての水を』  
(2019年、41分)

2021年12月、宮城県は上下水道・工業用水の運営権を一括して民間企業に売却する契約を結びました。長期間の運営権を民間事業者に委ねる「コンセッション方式」による水道事業民営化としては日本初の事例で、2022年4月から事業が開始されます。しかし、世界では、水道民営化の多くは失敗に終わり、欧州を中心に「再公営化」を選ぶ自治体が増えています。「みやぎ方式」の民営化はどのように進められてきたのか、それがもたらす影響を宮城市民はどう懸念し、どう関わっているのか。現地から報告いただきます。



12月12日 (月) 19:00～21:00

フィリピンバナナの変わる現実、変わらない現実—「バナナと日本人」のその後



石井正子 立教大学 教授

上映作品

『甘いバナナの苦い現実』第2部 (2018年、27分)

鶴見良行『バナナと日本人』(1982年)から40年。同書に描かれた、日本に届くバナナの背後にあるフィリピン・ミンダナオ島の農園の過酷な実態は、決して過去のものではありません。栽培・流通をめぐる構造に変化が見られ、一部の多国籍企業が環境や人権に配慮した取り組みを打ち出している一方で、労働者や近隣住民が危険な農業にさらされ、ストライキを行った労働者は不当解雇されるなど、バナナのために人の命が奪われる現実がいまも続いています。この現実と、私たちの暮らし・お金との関わりを問ひかけます。



10月26日 (水) 19:00～21:00

知っておきたいパーム油のこと—日本に暮らす私たちの責任



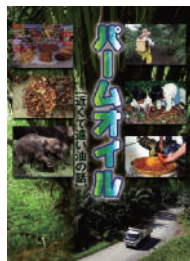
中司喬之

熱帯林行動ネットワーク (JATAN)

上映作品

『パームオイル—近くて遠い油のはなし』  
(2009年、22分) +  
『どこに行ってる、私のお金？』第2部  
(2021年、10分)

お菓子や即席麺などの食品、洗剤・化粧品などさまざまな製品に使用される「パーム油」。その約9割はインドネシアとマレーシアで生産されており、現地ではプランテーション開発によって熱帯林が失われてきました。加えて、児童労働が報告されるなど、劣悪な労働環境も問題視されています。企業や銀行は持続可能な生産・調達を掲げていますが、実態を伴わない認証による「グリーンウォッシュ」も指摘されます。日本の企業や銀行ははたして十分な取り組みをしているのでしょうか？ 私たちにどのような働きかけができるか考えます。



PARC DVD 最新作!!

プラットフォーム・ビジネス—「自由な働き方」の罠

2022年 / DVD / 34分 (予定)  
定価: 4,500円 + 税 (図書館価格: 15,000円 + 税)  
監修: 川上資人 監督: 土屋トカチ  
企画・プロデューサー: 内田聖子

デジタル化が進む私たちの暮らし。グローバルIT企業による「プラットフォーム・ビジネス」も急成長を遂げており、「Uberイーツ」に代表されるフードデリバリー・サービスでは、スマホひとつで「好きな時間に、自由に働ける」とされています。しかし、そこでの働き方は本当に自由で公正なのでしょうか？ 配達員や彼らの結成したユニオンへの取材を通して、「自由な働き方」がはらむ問題点を提起します

★詳細・注文はウェブまたは PARC 事務局まで  
<http://www.parc-jp.org/>





## 市民調査で世界のしくみを紐解こう

あなたが銀行に預けたお金はどこに流れていますか？

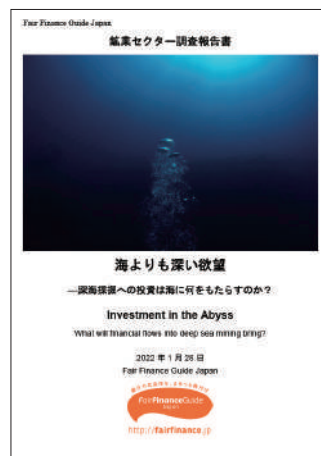
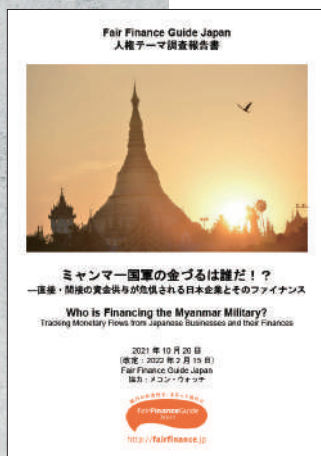
PARCでは日本のNGOのネットワーク組織であるFair Finance Guide Japanの一員として市民調査を通じて、銀行に預けた私たちのお金の行方を調査しています。

例えば、2021年は日本の市民の預金や税金からクーデターを起こしたミャンマー国軍へと流れている可能性の高いお金の流れを調査しました。

報告書「ミャンマー国軍の金づるは誰だ!？」ではミャンマー国軍と関与が深いとされる企業を利することへとつながっている開発プロジェクトや日本の飲料メーカー「キリン」が国軍と密接な関係にあることを明らかにし、そこには日本の銀行を通じた投融資や公的資金の流れがあることを突き止めました。

また、国際自然保護連合(IUCN)が勧告を出す中でも日本政府と民間企業は海の底の鉱物へと手を伸ばそうとしています。ひとたび破壊されてしまえば再生には100年以上かかるといわれる深海生態系へと欲望の食指を動かしている企業群には日本の企業も含まれます。そんな世界の海を破壊するお金の流れは報告書「海よりも深い欲望」に示されています。

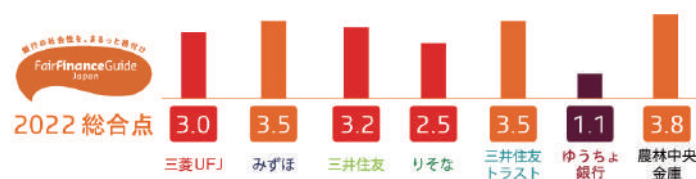
どちらもFair Finance Guide Japanのウェブサイトで無料でご覧いただけるほか、動画資料「メガバンクの闇を暴く」もご視聴いただけます。



詳しくは <http://fairfinance.jp> へ



大手金融機関の環境・社会配慮格付けもしています!  
アナタの銀行は何点?



# 全国の自由学校ネットワーク

自由学校は学びの草の根ネットワークです。全国各地でそれぞれの地域に根差した個性的な自由学校が開講されています。また「自由学校」と名乗ることがなくても、地域で市民のための学びの場を提供する取り組みは全国に多数あります。



## ● さっぽろ自由学校「遊」

札幌に拠点を置く「市民がつくる、市民の学びの場」です。今年度も、様々な社会課題をテーマとした講座を中心に、多彩な講座や学習会を開講予定です。オンラインを活用した講座も多数準備していますので、北海道の方もぜひご参加ください。

〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目愛生館ビル5階 501  
TEL:011-252-6752 FAX:011-252-6751  
syu@sapporoyu.org  
<http://sapporoyu.org/>  
<https://www.facebook.com/sapporoyu>

## ● あどぼの学校

京都、名古屋、岐阜のNPO/NGO関係者と協働し、あどぼの学校運営委員会を組織し、アドボカシーの担い手育成講座である「あどぼの学校」の実施、ならびに各地域のアドボカシー研究・分析を行っています。先人たちのアドボカシーの系譜を記録する「あどぼの研究会」を実施し、各地のアドボカシーの実践者をネットワークする「あどぼのプラットフォーム」の運営などに取り組んでいます。

〒503-2124  
岐阜県不破郡垂井町宮代1794番地の1  
フェアトレードショップ&地産地消 みずのわ内  
TEL:0584-23-3010 FAX:0584-84-8767  
info@sento-tarui.org (特定非営利活動法人 泉京・垂井)  
<https://www.facebook.com/advono/>  
<http://adobono.strikingly.com/>

## ● 八王子市民のがっこう「まなび・つなぐ広場」

東京の西の端、八王子市を中心に市民のゆるやかなつながりの中で運営している学習グループ。2011年の東日本大震災／原発事故後の連続講座の取り組みからスタートし、様々なテーマの講座やワークショップ、上映会などを不定期に開催しています。キャッチフレーズは、「未来の人たちに手渡せる社会を選びとろう」。例年おこなう『フクシマ』を忘れない講座のほか、まち歩きで地域の持続可能性を再発見していく「つづく地図」づくり、フェアトレード(民衆交易)や地域産品を紹介・出店販売する「くらし・つなぐストア」の運営などもしています。時々PARCのDVD上映会なども開催。お気軽にご連絡ください。

〒192-0082  
八王子市東町3-4 アミダステーション気付  
TEL:070-5567-0168  
manabi.tsunagu@gmail.com  
<http://www.gakkou.org>  
<https://www.facebook.com/843kozapage/?ref=bookmarks>

## ● PP21 ふくおか自由学校

自分たちの暮らしと世界がつながっているという視点から世界を知り、そのことを通して日本を、福岡を、とらえかえす場です。分断された社会につながりを取り戻すために、出会い、体験し、自らが発信していく場です。講座は6月から開講予定。詳しくはウェブページをご覧ください。

〒815-0083  
福岡市南区高宮4-10-41 パウリスタ工房気付  
TEL:090-4357-7596 080-6406-9251  
ohyamayairochou@yahoo.co.jp  
<http://fukuokafreeschool.web.fc2.com/>

## ● 秩父雑穀自由学校

1億7000年前に誕生したといわれる秩父の大地で、近代農業以前の農と食を学んでみようという開講して9年目になる秩父雑穀自由学校(埼玉県秩父市)です。まなびの中心は稲作以前の雑穀(キビ、アワ、ヒエ)とダイズ、コムギを組み合わせた“つくりまわし”(輪作)の農法、それにイモ類(ジャガイモ、サツマイモ、サトイモ)の栽培、それに若干の野菜。多くは地産です。できる限り手仕事で昔風の栽培、そして出来たものの食べ方を学びます。地産のダイズ「借金なし」を栽培し、この地の伝統的な手法による味噌づくりも行います。

講師◎八木原章夫さん(農民)  
コーディネーター◎西沢江美子(農業ジャーナリスト)  
参加費◎年間参加10,000円(単発参加も可能です。その場合は毎回実費がかかります。)  
期間◎2022年4月～2023年3月(基本的に毎月第三土曜開催)  
場所◎埼玉県秩父市大宮(上ノ台) 西武秩父駅もしくは秩父鉄道秩父駅から徒歩25分

〒368-0023  
埼玉県秩父市大宮5734-4  
TEL:0494-25-4782, 050-3569-8757 FAX:0494-25-4782  
kz1940@yahoo.co.jp

## 受講を申し込みたい方は

1. ウェブサイトからお申し込み、またはメール・電話・FAXでお問い合わせください。

申し込み締切:**2022年5月31日(火) 必着**

※締切後のお申し込みおよび途中参加についてはお問い合わせください。

2. お申し込み後、お支払いのご案内をメールまたは郵送にてお送りしますので、郵便局・銀行にてご入金手続きをお願いします。ウェブサイトからはクレジット決済も可能です。受講料のお支払いをもってお申し込み手続き完了となります。先着順で定員に達し次第締め切りますので、お早めにお申し込みください。

※領収証の発行をご希望の方は、PARC事務局までご連絡ください。

3. お申し込み・ご入金いただいた皆さまには、開講日2週間前になりましたら、講座の詳細についてご連絡申し上げます。

## 入学金と受講料について

◎自由学校連続講座を初めて受講される方は、受講料の他に入学金10,000円が必要です。(入学登録完了後は、以降の年度での入学金は不要です。)

◎お支払いいただいた入学金・受講料は、講座開講中止の場合を除き払い戻しできません。ご了承ください。

◎消費税はすべて内税です。

◎入学金・受講料とも原則一括でお支払いください。分割入金をご希望の方は、事務局までご相談ください。

## 割引制度について

◎若者応援！〈U25割〉／〈U30割〉:25歳以下の方は講座番号1～6の講座を、30歳以下の方は講座番号12の講座を、特別割引受講料5,000円(入学金免除)にて受講いただけます。ご希望の方はウェブサイトの専用ページからお申し込みいただくか、PARC事務局までお問い合わせください。

## 講座の開講形式について

オンラインでご参加いただく講座と、オフライン(教室やフィールド)でご参加いただく講座がございます。開講形式の詳細は「講座一覧」ページをご確認ください。なお、オンライン講座はzoomを利用する予定です。

## PARC 自由学校 連続講座受講生が 利用できるサービスについて

◎講座の録画(録音)データ・配布資料のダウンロード

ご自身が受講されている連続講座については、講座終了後に講義内容を録画(録音)したデータ・配布資料を原則インターネットでダウンロードできます(無料)。復習や欠席の際にぜひご利用ください。ただし、講師の事情等により共有できない場合や、出かける回や作業が中心の講座など録画(録音)されない講座もあります。また、質疑応答等は省略する場合があります。予めご了承ください。

◎他の連続講座の単発受講(越境受講)

通常、連続講座は全ての回数を通して受講いただくことが前提ですが、同年度に連続講座を受講いただいている方は、越境受講料を払っていただくことで、他の連続講座の単発受講(越境受講)が可能になります。越境受講していただける講座の詳細や越境受講料についてはお問い合わせください。

◎オンライン受講のサポート

オンライン参加にあたり、接続等に不安のある方はPARC事務局までご相談ください。接続マニュアルの送付など、ご参加のためのサポートをいたします。また、機材やインターネット環境に不安のある方は、PARC事務局にてオンライン講座にご参加いただくことも可能です。

## PARC 自由学校での感染症対策について

※対面開催の講座については、感染症の状況により、講座日程の延期や中止、あるいはプログラムの一部変更の可能性がございます。講座中止の場合には、中止回数分に応じて受講料を返金いたします。開講日2週間前になりましたら、開催可否について判断し、お申し込みいただいた皆さまにお知らせいたします。  
※講座開催にあたっては、参加者の定員を設け、参加者間の間隔確保や換気、消毒、飛沫拡散防止などの基本的な感染症対策を徹底して運営いたします。ご参加の皆様には、マスクの着用や消毒、検温のご協力をお願いするとともに、発熱がある方、体調不良の方はご参加をご遠慮いただけますようお願いいたします。

## PARC とは？

特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター (PARC: Pacific Asia Resource Center) は、南と北の人びとが対等・平等に生きることのできる社会をめざして様々な活動に取り組んでいます。

南の人びとの状況や国際的な課題についての情報収集や調査研究活動、問題の解決に向けた政策提言活動やキャンペーン、PARC 自由学校や開発教育教材としてのオーディオ・ビジュアル作品、インターネットを通じた情報発信を行っています。

南と北の人びとが対等・平等に、ともに生きていける関係をつくることと、日本社会が変わることは、別々のことではありません。PARC は人びとが国境を越えて出会い、ネットワークを広げ、エンパワーしあっていく、その媒介役となることをめざしています。

もっと詳しく知りたい方は

より詳しい情報については、PARC 自由学校ウェブサイトをご覧ください。

<http://www.parcfs.org/>

PARC 自由学校

検索



こちらでも情報発信中！



@parc\_jp



お申し込み・お問い合わせ

特定非営利活動法人アジア太平洋資料センター (PARC)  
PARC 自由学校

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 1-7-11 東洋ビル 3F  
TEL:03-5209-3455 FAX:03-5209-3453 Email:office@parc-jp.org

郵便振替 00100-2-606697 PARC 自由学校  
ゆうちょ銀行 〇一九支店 (019) 当座口座 0606697 PARC自由学校

## PARC 自由学校とは？

PARC 自由学校は、世界と社会を知り、新たな価値観や活動を生み出すオルタナティブな学びの場です。1982年の開講以来、アジア、アフリカ、中南米など世界の人びとの暮らしや社会運動を知る講座、世界経済の実態や開発を考える講座、環境や暮らしのあり方を考える講座など、毎年約20講座を開講しています。

私たちが生きている世界のこと、そしてその世界とつながっている日本社会のことを知りたい。より豊かな暮らし方や生き方のヒントが欲しい。自分らしさを表現するための技術を身につけたい。そんな人たちが出会い、学びあうのが自由学校です。

新しい視点や新しい知識に出会うと、発想が変わります。すると、これまで思っていたのとは違う世界や社会が見えてくるかもしれません。そして、今ようではない社会はどんな社会なのか、どうしたら実現できるのかを考えたくなったり、もしかしたら動き出したくなるかもしれません。自由学校はそのきっかけとなる場でありたいと考えています。